

今月のエキゾチック症例(第9回 2023年12月) 魚類の多発性腎嚢胞

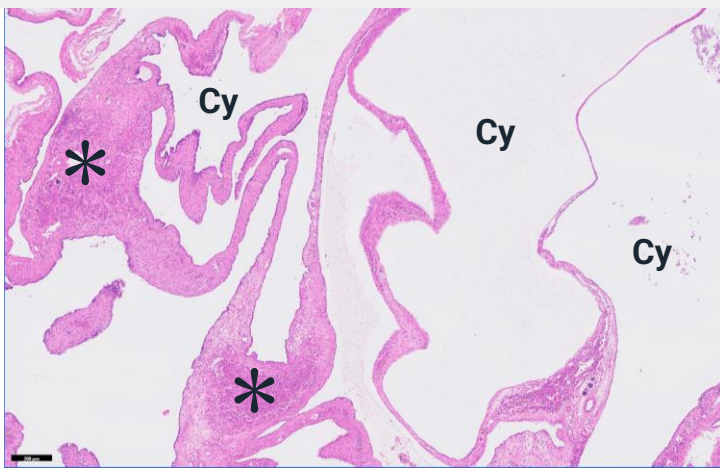


図 1. 金魚, 肉眼写真.
腹部膨満による遊泳運動の異常が認められます。
(写真提供:ヴァンケット動物病院様)

図 2. 腎臓, 組織写真, 中倍像.
腎臓実質(*)は多数の嚢胞(Cy)により圧排されています。

金魚や鯉では、腎臓における多発性嚢胞が時折観察されます。この病態は粘液胞子虫 *Hoferellus carassii* の感染による腎腫大症とは区別され、多発性嚢胞腎(Polycystic kidney disease)と呼ばれることもあります。この病態の原因は明らかになっていませんが、遺伝、水質汚染、腎臓の発生異常などの可能性が示唆されています。

肉眼的に、罹患魚では腹部膨満が認められ(図1)、画像検査などで体腔内の嚢胞を確認することが出来ます。組織学的に、腎臓は嚢胞に圧排されて重度の萎縮を示します(図2)。この嚢胞は黄褐色の液体を含んでいることが多く、扁平化した上皮細胞に裏打ちされます(図3)。腎腫大症においても類似した腎嚢胞が観察されますが、尿細管上皮の増殖所見や虫体の確認などで区別することが可能です。また、腎腫大症には季節性があり、左右非対称性の腹部膨満が起こりやすいことなども、臨床的な鑑別点と考えられます。



図 3. 腎臓, 組織写真, 高倍像.
嚢胞(Cy)は青矢印で示す一層の扁平~立方上皮細胞により内張られています。周囲には尿細管(T)、糸球体(G)、および造血細胞(H)が確認できます。

診断医からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

「今月のエキゾチック症例」を掲載しよう！と決めたときから、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類の全部を網羅しようと考えていました。魚類はなかなか検査には出されませんが、様々な動物種を診れるのもエキゾ診療の良いところですね！尚、魚類の体腔内嚢胞は他にも肝臓、脾臓、卵巣などで発生報告があるようです。

参考文献

1. Munkittrick KR et al., Vet Pathol. 1989;22:232-237.
2. Molnar K et al., Disease of aquatic organisms. 1989;7:89-95.
3. Ranmati-Holasso H et al., Fish Pathol. 2020;40(1):38-44.
4. 東京都水産試験場 病害研究報告書. キンギョの腎腫大症(仮称). 昭和47年3月.



診断医: 平島 瑞希
DVM, PhD, DACVP,
DJCVF